

JENESYS2024 ASEAN 同窓生のオンライン学生会議 の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】JENESYS 同窓生がオンラインで集い、「地方開発」「貧困撲滅」「食糧問題」「ビジネス」の 4 つの専門分野（テーマ）に基づいた講義やワークショップ等を通じて、各テーマにおける日本の取組への理解を深めるとともに課題解決作を考え、各分野における同窓生及び日本側参加者とのネットワーク構築を図ることを目的として実施しました。

【参加者】ASEAN 諸国^(注) 及び東ティモール、日本の JENESYS 同窓生（2015 年度～2023 年度の参加者） 計 87 名

（内訳）インドネシア 12 名、カンボジア 8 名、シンガポール 1 名、タイ 1 名、フィリピン 19 名、ブルネイ 2 名、ベトナム 6 名、マレーシア 11 名、ミャンマー 4 名、ラオス 7 名、東ティモール 15 名、日本 1 名

（注）ASEAN 諸国：インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス

【グループ参加人数】①地方開発 24 名、②貧困撲滅 24 名、③食糧問題 21 名、④ビジネス 18 名

【日程】オンライン学生会議

2 月 11 日（火曜日） 【オリエンテーション】，【参加者間交流】自己紹介、意見交換、
【ワークショップ】グループ別プログラムの問題提起と現状共有

2 月 12 日（水曜日） 【テーマ関連講義】
①地方開発「東南アジアにおける地域開発：特に都市地域に焦点を当てて」
講師：立命館大学 名誉教授 生田 真人 氏
②貧困撲滅「貧困、格差、指標、課題、世界の状況」
講師：立命館大学 経営学部 国際経営学科 教授 宮田 幸子 氏
③食糧問題「世界の食品ロスと食品廃棄物（FLW）：FLW削減に向けた戦略」
講師：東京大学大学院農学生命科学研究科 農学国際専攻 国際情報農学研究室
准教授 荒木 徹也 氏
④ビジネス「ビジネスはいかにして社会問題を解決するか」
講師：ソーシャルマッチ株式会社 取締役 樋口 麻美 氏
【ワークショップ】グループ別プログラム 問題の定義と分析

2 月 13 日（木曜日） 【テーマ関連講義】
①地方開発「地方自治のための地域協同組合のサブシステムによる人口減少と
気候変動問題への取り組み」
講師：Next Commons Lab 代表取締役 林 篤志 氏
②貧困撲滅「貧困撲滅」
講師：北海学園大学 経営学部 経営学科 教授 菅原 秀幸 氏

③食糧問題「fabula 株式会社の食品ロス削減取り組みの事業概要と背景」

講師：fabula 株式会社 代表取締役 町田 紘太 氏

④ビジネス「ビジネスの力で社会問題を解決する方法」

講師：株式会社ボーダレス・ジャパン 大村 萌菜美 氏

【ワークショップ】課題・原因の分析

2月14日（金曜日）

【ワークショップ】解決策の議論

【日本文化紹介クイズ大会】

講師：東京外国語大学 Enjoy! TUFS 代表 吉田 夏衣 氏

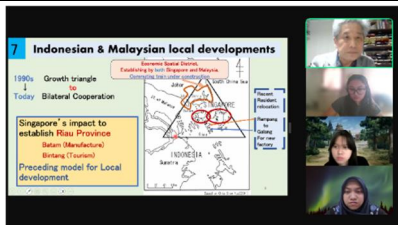
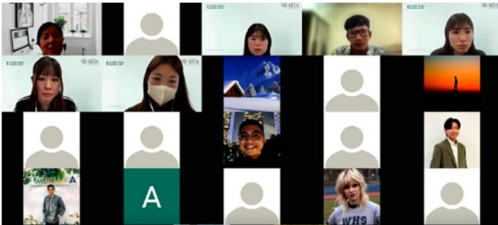
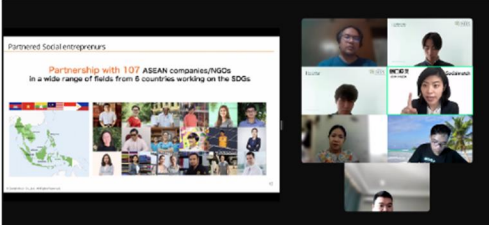
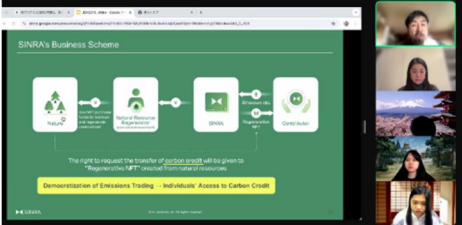
2月15日（土曜日）

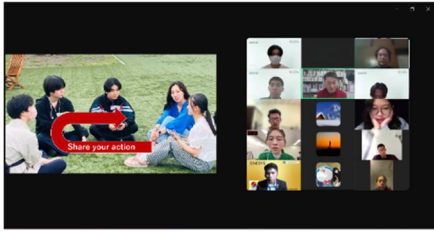
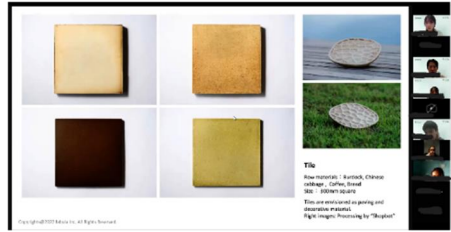
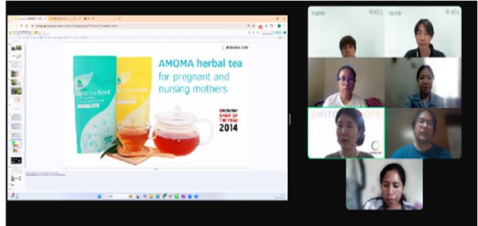
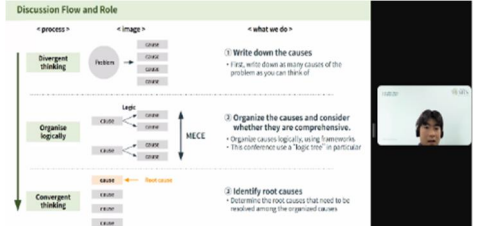
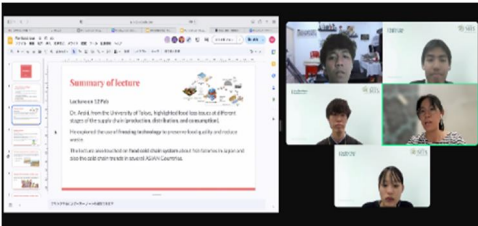
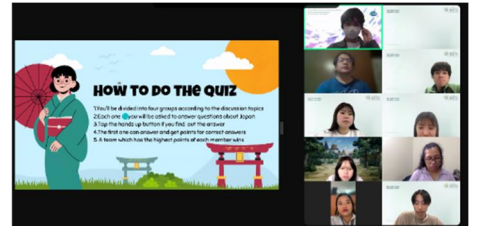
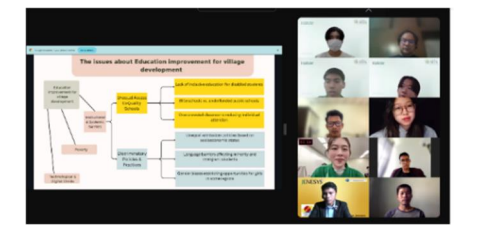
【ワークショップ】報告会準備（活動のとりまとめ、活動計画（アクション・プラン）の作成

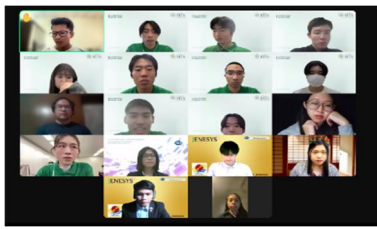
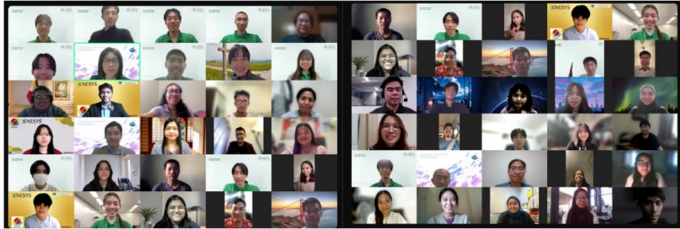
2月16日（日曜日）

【報告会】活動成果・アクション・プランの発表

2. 記録写真

	
2025年2月11日【全体オリエンテーション】	2025年2月12日【テーマ関連講義】①地方開発 「東南アジアにおける地域開発：都市地域に焦点を当てて」
	
2025年2月12日【テーマ関連講義】②貧困撲滅 「貧困、格差、指標、課題、世界の状況」質疑応答	2025年2月12日【テーマ関連講義】③食糧問題 「世界の食品ロスと食品廃棄物（FLW）：FLW削減に向けた戦略」
	
2025年2月12日【テーマ関連講義】④ビジネス 「ビジネスはいかにして社会問題を解決するか」	2025年2月13日【テーマ関連講義】①地方開発 「地方自治のための地域協同組合のサブシステムによる人口減少と気候変動問題への取り組み」

	
2025 年 2 月 13 日【テーマ関連講義】②貧困撲滅 「貧困撲滅」	2025 年 2 月 13 日【テーマ関連講義】③食糧問題 「fabula 株式会社の食品ロス削減取り組みの事業概要と背景」
	
2025 年 2 月 13 日【テーマ関連講義】④ビジネス 「ビジネスはいかにして社会問題を解決するか」	2025 年 2 月 13 日【ワークショップ】
	
2025 年 2 月 14 日【ワークショップ】	2025 年 2 月 14 日【日本文化紹介】
	
2025 年 2 月 15 日【ワークショップ】 報告会準備	2025 年 2 月 16 日【報告会】①地方開発
	
2025 年 2 月 16 日【報告会】②貧困撲滅	2025 年 2 月 16 日【報告会】③食糧問題

	
2025 年 2 月 16 日【報告会】④ビジネス	2025 年 2 月 16 日【報告会】質疑応答
	
2025 年 2 月 16 日【報告会】記念撮影	

3. 参加者から寄せられた質問・関心事項（抜粋）

- ◆ ①地方開発 Next Commons Lab 林 篤志 氏の講義「地方自治のための地域協同組合のサブシステムによる人口減少と気候変動問題への取り組み」について
 - ・ 自分が地方の活性化に貢献するにはどのような方法がありますか。
 - ・ NFT（非代替性トークン）^{（注）}を活用した革新的な方法は興味深いものでした。
 （注）NFT（Non-Fungible Token／非代替性トークン）：ブロックチェーン技術により、他者によるデータの改ざん・複製・消去できないようにしたデジタル資産のこと。デジタルデータに唯一性を持たせることで、音楽や動画、デジタルアートなど幅広い分野において所有権や真正性の証明に活用されている。
- ◆ ②貧困撲滅 立命館大学 宮田幸子 教授の講義「貧困、格差、指標、課題、世界の状況」について
 - ・ GDP の成長がどれほど実際の貧困状況改善を表しているのでしょうか。また、実態に則していると思いますか。
- ◆ ③食糧問題 東京大学 荒木 徹也 准教授の講義「世界の食品ロスと食品廃棄物（FLW）：FLW 削減に向けた戦略」について
 - ・ フードロス削減の成果の判断方法には、どのようなものがありますか。
 - ・ 日本の冷凍食品に関する統計データが多く、興味深いケーススタディとなりました。
- ◆ ④ビジネス ソーシャルマッチ株式会社 樋口 麻美 氏の講義「ビジネスはいかにして社会問題を解決するか」について
 - ・ ビジネスと SDGs への貢献は、どのように両立したらいいのでしょうか。
 - ・ 日本の企業が、東南アジアへ進出する上でどのような障壁がありますか。
 - ・ ビジネス分科会のテーマである経済性と社会貢献性の両立について考えさせられました。

4. 参加者の感想（抜粋）

- ◆ カンボジア 大学院生
 講義を含めて、セッションはすばらしくとても良い時間でした。アジア諸国からの参加者や講師とのディスカッションを通して、洞察力を高めることができました。

◆ **ラオス 大学生**

地方開発の 2 人の講師が多く新しい視点を共有してくれたおかげで、地方開発におけるさまざまな背景や戦略を理解することができました。また、このトピックについて比較し、より深く掘り下げることができました。また、NFT（非代替性トークン）を活用した革新的な方法についても興味深い動画を通して学ぶことができました。

◆ **マレーシア 大学生**

このプログラムに参加し、食品廃棄の問題やその削減方法について知識を得ることができて非常に興味深かったです。

◆ **フィリピン 社会人**

貴重な講義をしてくださった講師の方々に感謝します。急激な人口減少を食い止める措置として NFT を活用した日本の村のこと、地域の協同組合とその機能のこと、環境の急激な変化と市民として何ができるか、そして都市の開発について学びました。このプログラムは、私たちが知らないことや馴染みのないテーマについて見識を深めるのに役立ちました。私たちのテーマ（地方開発）は、観光産業で直面しうる問題に対するアクション・プランについて、ブレインストーミングすることで、批判的に考える助けとなりました。

◆ **フィリピン 社会人**

このような素晴らしい機会をいただき、本当にありがとうございました。講師の方々、ファシリテーターや他の参加者から多くのことを学びました。特定のトピックについて、異なる国に住んでいる人たちから様々な視点で話を聞くことができるのは非常に有益です。今後もこのようなワークショップに参加したいと思っています。

◆ **東ティモール 大学院生**

私が同窓生プログラムについて感じた 4 つの印象について記載します。

1. ネットワーキングと再構築：JENESYS の同窓生に会い、経験を共有し、異なる分野や国を超えた貴重な個人的・職業的つながりを築くことができます。
2. キャリアと学習の機会：講義、ワークショップ、ディスカッションを通して、自身のキャリア、教育、自己啓発に役立つ見識を得ることができます。
3. 文化交流と連携：文化を超えたディスカッションや共同プロジェクトの可能性を追求することで、日本と諸外国との相互理解を促進します。
4. JENESYS と関わり続ける：JENESYS や関連団体が提供する新しいプログラムや取り組み、また、奨学金・就職・将来のイベントなどの機会を把握することができます。

◆ **東ティモール 大学生**

この同窓生プログラムに参加できて非常に感謝しています。日本、ASEAN、東ティモールの食糧問題について学び、探求し、知識を広げる機会を得ることができ、特にファシリテーターと同窓生の友人たちとの積極的な相互交流を通じて、私たちはアクション・プランを策定することができました。また、プレゼンテーションの準備のために協力し合い、お互いを助け合いました。幸運にも私たちは、グループ③「食糧問題」の代表に選ばれ、最終日にプレゼンテーションを行うことができました。今後も JENESYS プログラムには、私たち同窓生のためにこのオンラインプログラムを継続し、私たちがさらにネットワーキングや友情を深め、日本、ASEAN、東ティモールの国々のより強固なつながりを築くことができるようにしていただきたいと思います。

◆ ベトナム 大学生

講師の方々のおかげで、ソーシャルビジネスのビジネスモデルやビジネスプロジェクトの考えについてより深く学ぶことができました。また、他国の友人とのディスカッションを通して、知識を深めるとともに、自分たちのアイデアや取り組みを提案するという練習にもなりました。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

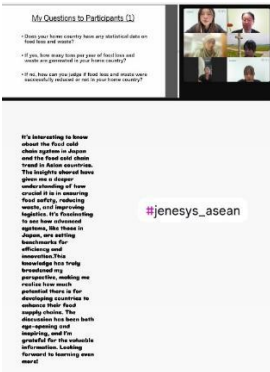
◆ 講師

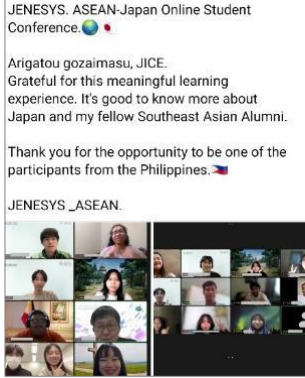
貴重な機会をいただきありがとうございました。参加者の皆様よりたくさんご質問をいただき、ビジネスで社会問題解決に取り組む方法について、皆様とディスカッションさせていただきましたことをとても嬉しく思います。世界の社会問題解決に向けて、今後も精進して参りたいと思いますので、もしまたこのような機会がありましたら、ぜひご案内いただけましたら幸いです。

◆ 協力団体

各チーム紆余曲折がありましたが、最終的に一つの形を作り上げることができたことに達成感を感じました。発表する様子から、各人が報告会までの五日間、テーマに対して真剣に向き合い、様々な考えを巡らせてきたことが感じられました。

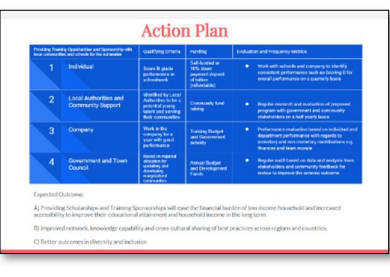
6. 参加者の対外発信（抜粋）

	
2025 年 2 月 13 日（Instagram） マレーシア 大学生 日本のフードコールドチェーン（低温保管が必要な製品を扱うための物流手法）システムやアジア諸国のフードコールドチェーンの動向を知るとは興味深かったです。食品の安全性を確保し、廃棄物を削減し、物流を改善する上で、コールドチェーンがいかに重要であるかを深く理解することができました。日本のような先進的なシステムが、効率性と革新性のベンチマークとなっているのが興味深く思いました。今回得た知識は私の視野を広げ、発展途上国にフードサプライチェーン（食料が生産され消費されるまでの過程や流れ）を強	2025 年 2 月 16 日（Instagram） インドネシア 大学生 JENESYS の 2 回目の同窓会プログラムに参加し JENESYS に戻ってきました。この 6 日間のオンラインイベントは、ASEAN 諸国の地方開発に焦点を当て、地域社会の変革における教育の役割を強調しました。私たちは 4 つのグループに分かれ、それぞれに関心分野について話し合いました。私たちの目標は、地方の教育上の問題に対する解決策を見つけ、議論し、発表することでした。この 6 日間、さまざまな国から集まった JENESYS の同窓生がチームとして、自国の視点から問題を議論することで絆を深めることができた素晴らしい

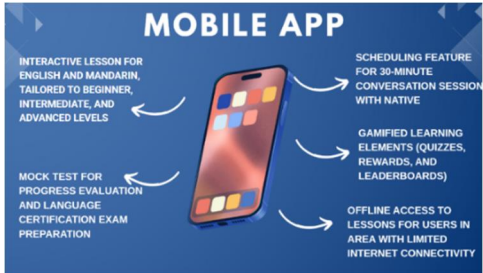
化する可能性がどれほどあるのかを気づかせてくれました。ディスカッションは新鮮かつ刺激的で、貴重な情報に感謝しています。より多くのことを学んでいきたいと思います。	いプログラムであったと思います。日本の大学生で構成された MIS チームの指導の下、ASEAN の地方における教育の質の低さについて、問題解決型のプレゼンテーションを作成しました。(後略)
	
2025 年 2 月 12 日 (Instagram) マレーシア 大学生 意見交換セッションの後、ロジックツリーの作業を行いました。このセッションでは、各セクションに沿って自分たちの意見を取り入れながら、ロジックツリーを構築しました。 皆のアイデアを知るのはとても刺激的で、楽しい活動でした。	2025 年 2 月 16 日 (Instagram) フィリピン 大学生 有意義な学びの経験に感謝します。日本や他の東南アジア諸国の同窓生について知ることができました。 このプログラム参加する機会をいただいたことに感謝します。

7. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表 (抜粋)

全 8 グループが発表

① 地方開発	② 貧困撲滅
	
【テーマ「地方開発」の学び】 観光：観光開発における問題として、特に道路や観光施設の整備不良などインフラ面に着目しました。原因としては不適切な予算の割り当て、開発計画の不十分さ、施設の持続的な点検不足などがあります。 農村開発：東南アジアは、島嶼部と大陸部に大別されますが、どちらも地方開発に関する制度変化	【テーマ「貧困撲滅」の学び】 貧困が生まれる原因として、教育を受けられないということ、収入が低いということが考えられますが、ASEAN 諸国内でのボトルネックは教育面にあると知り、教育の重要性を改めて感じました。また、ASEAN においてはビジネス慣行の透明性の不足が問題であることが、今回のプログラムを通して浮き彫りになりました。

は急速に進んでおり、それぞれに共通点、相違点がみられました。地方分権の代表例は、南フランスやチェジュ島における例が挙げられますが、東南アジア各国でも地方分権の制度変化が起きていることを学びました。 教育：地方開発における教育問題としては、不平等な教育機会、退学率の増加傾向などがあります。その原因は、インフラの整備不良、予算の不適切な割り当て、時代遅れなカリキュラム、質の高い教員の不足などが考えられます。 【アクション・プラン】 観光：観光客誘致のための総合的な計画を策定します。それに基づいて SNS を用いた地方の魅力発信、観光のためのインフラ設備投資への予算拡大の働きかけを行います。設備投資の面については、自治体への働きかけを行うことでインフラの改善を図ります。 農村開発：地域の公民館や図書館などの無料スペースで、意欲ある大学生や若い社会人を対象にした勉強会を週に 1-2 回、1 回 1~2 時間の頻度で開催します。アクティビティなども取り入れ、実践的に学べる環境を作ります。 教育：学校施設の整備が大切であると考え、地方にある学校で調査を行い、施設整備を行うべき学校の優先順位を決定しながら施設整備を推進します。NGO などにも協力を仰ぐ予定です。施設整備の実現は、生徒が学校に通うモチベーションをあげることにつながります。最終的に教育のカリキュラムの見直しなどにも力を入れて教育全般の質の向上を目指します。	【アクション・プラン】 地域社会や学校と連携し、社会的弱者に対するトレーニング機会やスポンサーシップを提供します。 学生であれば一定の成績を維持すること、企業に勤めているのであれば、一定期間勤め、良好な成績を納めた場合、などの条件を付けます。 透明性を高めるために、企業に対しては、賃金や労働条件についてオープンにすること、公正な待遇を求めて労働者が声をあげる機会を設けることを求め、官民協力で企業の透明性を高めるために協力することを政府と企業の双方に求めます。 【期待される成果】 ・奨学金と研修スポンサーシップの提供は、低所得世帯の経済的負担を軽減し、長期的に教育達成度と世帯収入を向上させるためのアクセスを増加させることになります。 ・透明性を高く保つことによって、地域や国を越えた異文化間での知識経験やベストプラクティスの共有を図ることが可能になります。 ・多様性と包容性に関して、より良い結果が期待できます。
--	--

③ 食糧問題	④ ビジネス
	
【テーマ「食糧問題」の学び】 日本では既にコールドチェーンが整備されており、そのため冷凍技術により食品の鮮度を維持し、フードロスの減少に役立っていることを学びました。 また、フードロスの焼却処分による環境負荷が大きく、日本においてはフードロスを再活用する事業が行われていることを学びました。 【アクション・プラン】 - 各種 SNS でフードロス削減と気象予報に関連した情報について画像や動画形式で投稿し、また各メンバーの所属大学の学生に対しても SNS でそのようなコンテンツを投稿するよう働きかけます。また、家庭やコミュニティでフードロスを削減できるような情報を共有するオンラインサイトを立ち上げます。 - 天候の影響を受けにくい農法について学生に対しての授業を行い、また農家とのワークショップの開催を通じて最新の農法の情報交換や天気予報アプリといった最新技術の導入を行います。 - 生産者、学生、そして消費者が情報を交換できるオンラインプラットフォームの運営を行い、このプラットフォームを通して、大学でフードロス削減の講義を行ったり、学生ボランティアを農家へつなげる活動を行います。 - この活動を通して様々な学校や組織と協力関係を築いていきます。また、活動の参加者からデータやフィードバックを集め、大学や政府組織、NGO などの研究に役立てます。	ビジネスのアクション・プランの対象として、 ①インドネシアにおける収入格差を減らすこと ②持続可能で付加価値ある産業の育成を取り上げました。 【テーマ「ビジネス」の学び】 インドネシアにおける収入格差を減らすためには好条件の仕事を手に入れることが必要ですが、そのための解決策の一つとして実現可能性が高く、かつ一定の影響も期待できるものとしては、英語や中国語などの言語教育の推進が重要であると気づきました。 ソーシャルビジネスを他者に評価してもらい、実現させるためには具体的な手段（金、コネ、人員等）や他事業との差別化、さらにはボトルネックの設定が不可欠だと改めて感じました。 【アクション・プラン】 グループ全員で、北京語と英語の学習システムを搭載したフリーアプリ（ネイティブとの 30 分の会話レッスン等含む）を作り、地元の大学と提携して言語学習を促進することでインドネシアの収入による格差を減少させます。 グループ全員で、官民双方より資金提供や技術支援を受けながら、農民主体の農業協同組合を作り、持続可能で付加価値のあるアグリビジネスを進めることで、地域に根差した産業育成を目指します。

協力団体：特定非営利活動法人 MIS（Multilateral Interaction with Students）

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）